

平成 30 年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成 30 年 12 月
海老名市立海老名中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6

資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・小学校第6学年
 - ・中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

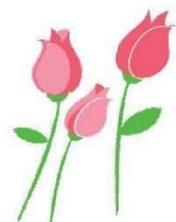
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成30年4月17日(火)



国語に関する調査結果

国語 A (主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 話し合いの話題や方向を捉えたり、捉えた内容に沿って的確に話をしたりする力が身についています。日頃から話し合い活動に懸命に取り組む姿勢がうかがえます。
- 書いた文章が十分に伝わるか検討したり、構成や段落を考えて読みやすい文章にしたりするなどの「書くこと」に関する力に優れています。

《努力を要する所》

- 文脈の中で語句の意味を理解したり、文脈に即して漢字を書いたりすることに課題が見られます。わからないことに直面した際に無解答が見られる傾向があり、文脈や流れなどその場で対応しようとする力が求められます。
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す力を身につける必要があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 国語Bにおいても、「話すこと・聞くこと」の分野に他の項目より高い正答率が見られました。特に、質問の意図を捉えたり、相手の反応を踏まえて話したりする点に優れています。話し合い活動によって身についた力を活用する点でも力を発揮しています。
- 文章の構成や展開について自分の考えをもつ項目に高い正答率が見られませんが、取組として、なぜその構成であるべきか考える活動を行っている成果であると考えられます。

《努力を要する所》

- 記述式の問題に比較的多く無解答が見られます。粘り強く解答しようとする、意欲ある姿勢をより伸ばしていけるとさらに良いです。
- 「読むこと」の選択問題では油断せず正答を選ぶ力に課題があります。

これまでの取組から

- 話すこと・聞くことについては、プレゼンテーションやブックトーク、ディベート等大きなものから、小グループで考えを深めるような小さなものまで取り組んでいます。活動を通じて、相手の話をよく聞き取り、自分の意見を返そうとする力が身についていると感じます。

今後の具体的な取組について

- 全体的には、知らないものに直面した際に即時的に対応できる力に課題が見られます。グループ活動の後に再度個人で考えを深める時間を充実させ、思考力の向上に努めます。
- 伝統的な言語文化についての知識の定着を目指し、繰り返し復習できる時間を設けます。



数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 正負の数・文字式・方程式などの問題において、計算のきまりにしたがって、正確に解くことができます。
- 図形については空間図形の認識力が特に高いです。
- 全体的に理解度が高く、基本事項をきちんと理解できています。計算も正確にできます。

《努力を要する所》

- 数量の大小関係を不等式で表すことには課題が残ります。
- 関数については、一次関数の意味や反比例についての復習が必要です。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 特に数と式については、必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することや、説明がよくできます。
- グラフから必要な情報を読み取り、的確に処理し、事象を数学的に解釈することができます。

《努力を要する所》

- 資料の活用においては、必要な情報の選択や、その分類整理等を的確に処理するところに課題が残ります。
- 関数に関して、事象を数学的に解釈し説明する力を伸ばす必要があります。

これまでの取組から

- 問題の答えを導く過程を大事にし、なぜそうなるのかの根拠を示して説明する力を伸ばすように指導を行っています。そのため、数学的見方や考え方について、全国平均を大きく上回ることができました。
- 基本事項の理解度が高く、ほとんどの設問で全国平均よりも高い正答率でした。また、無解答率が低いことから、理解度の高さだけでなく、真面目に取り組もうという意識の高さもうかがえます。

今後の具体的な取組について

- 既習内容の復習をし、基本事項のさらなる定着を目指すとともに、確実な計算力を身につけさせます。
- 数学的な表現を用いて説明する場面をより多く設けて、数学的な見方や考え方をさらに伸ばしていきます。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- 物理、化学、生物、地学の4領域において、多くの生徒が用語の意味や説明など、基本的な知識がおおむね定着しています。
- 各分野における現象について、要因を追求するための対照実験の計画を策定できるとともに、実験結果からその要因を判断することができています。また、実験結果から生じる新たな疑問に対して、建設的に追究することができています。
- 化学領域において、化学変化に対する原子・分子モデルを用いた微視的な捉え方の認知に優れています。

《努力を要する所》

- 物理量を計算によって算出する際に、その計算にどのような意味があるのかという認識が不十分です。何に対して何を求めるのか、そしてそれは何を示しているのかということを考える習慣づけが必要です。
- 地学領域において、地震に対する理解が不十分です。P波とS波が、どのような揺れを引き起こすのかという点について、それぞれの波の特異性を理解していく必要があります。

これまでの取組から

- 日常的に知識を積み上げる習慣づけができています。
- 実験等による順序立てて現象を追求していく取り組みが、科学的に考える力に対する成果として表れています。

今後の具体的な取組について

- 各物理量が示す意味を、その単位計算を扱う活動から理解を深めていきます。
- 現象を理解するための実験を多く取り入れ、その結果を、因果関係に基づいた論理的な文章構成で示す活動を取り入れていきます。



生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 数学が好きと答えた生徒の割合は全国より 8.1 ポイント上まっており、内容がよくわかるという生徒の割合は 83%で全国を 12 ポイント上回っている。公式や決まりの根拠を理解するようにしている生徒の割合は全国より 4.1 ポイント上まっている。
- 理科の授業で実験や観察は週 1 回以上行っており、全国を 30.3 ポイント上回っている。実験や観察をもとに考察もよく行っており、全国を 8.2 ポイント上回っている。また、実験の進め方や考えが間違っていないかの振り返りを行う生徒の割合は全国を 5 ポイント上回っている。
- 自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるように工夫している生徒の割合は全国を 5.9 ポイント上回り、話し合い活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた生徒の割合も 5.6 ポイント上回っている。

生活について

《よかった所》

- 基本的な生活習慣がきちんとできている生徒が多く、規範意識も高く 96.5%の生徒が規則を守っていると答えている。
- 朝食を毎日食べているかについては 95%の生徒が毎日食べており、全国を 3.1 ポイント上回っている。
- いじめはどんなことがあってもいけないと答えた生徒の割合は 94.5%、人の役に立つ人間になりたいと答えている生徒の割合は 94%、自分によいところがあると答えている生徒の割合も 77.5%と例年に比べ高くなっている。

《課題と思われる所》

- 将来の夢を持っているかについては 68%の生徒が持っているとは回答しており、全国を 4.4 ポイント下回っている。
- 地域の行事に参加している生徒の割合は 29%と低く、全国を 16.6 ポイント下回っている。
- また、地域のボランティアに参加したことがある生徒の割合は 64.5%であり、全国を 9.1 ポイント下回っている。

これまでの取組から

- 言語活動の充実を図るため、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動を通して発言する機会や友達の話聞いて考える活動を多く取り入れています。数学や理科の授業などでも自分の考えを振り返り、人の発表を聞きながら、学習を正確で思考の深いものにしていきます。「授業が好き」と答えている生徒が多いのは、先生方の指導の成果の表れだと思えます。

今後の具体的な取組について

- 自信のなさから行動に移れないところもあるので、家庭とも連携をとりながら、自信を持って行動できるように指導していきます。
- 学校生活全体を通じて、互いを認め合いよりよい人間関係を育めるよう、一人ひとりの生徒を大切に指導を心がけていきます。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

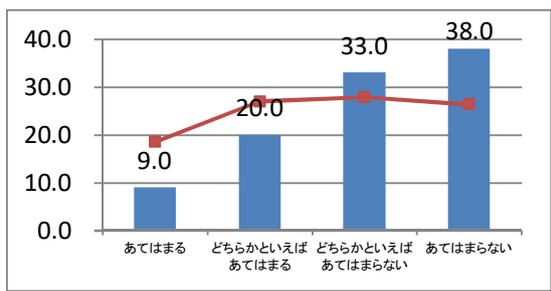
平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい5つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

棒グラフ(青)・・・海老名中学校 折れ線グラフ(茶)・・・全国

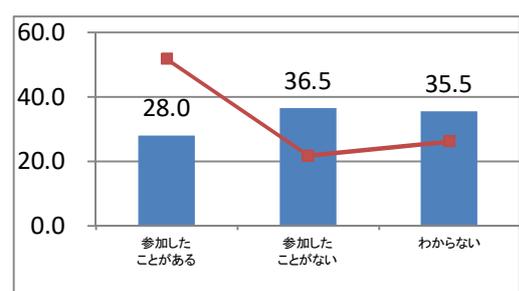
1 地域に関わりましょう

地域の行事やボランティアに積極的に参加しましょう。地域での助け合いの精神を持ちましょう。

地域の行事に参加していますか



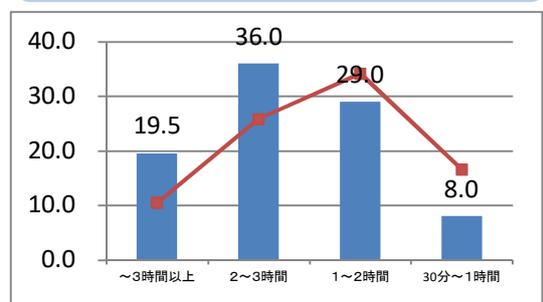
地域ボランティア活動に参加しています



2 意欲的に学習をしています

学校の授業時間以外での勉強も意欲的です。学習の習慣が身についています。

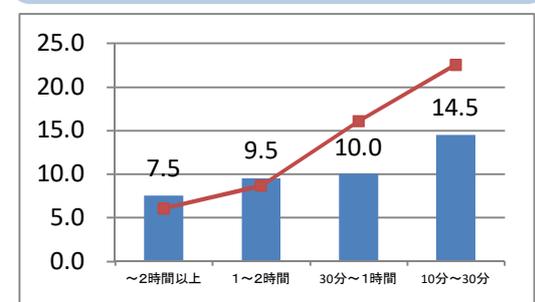
授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



3 読書をしましょう

読書は、知識を増やし、心を豊かにします。興味がある、たくさんの本を読みましょう。

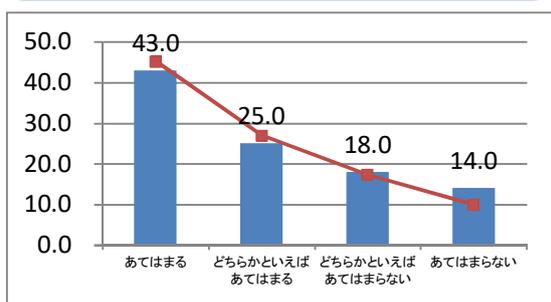
1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



4 将来の夢や希望を大切にしましょう

将来の夢を持つことにより、日々の生活に活力が湧いてきます。目標を持つことも大切です。

将来の夢や目標を持っていますか



5 人が困っているときは進んで助けましょう

困っている人を優しく助けてあげましょう。自分が困っている時には助けてくれるはずです。

人の役に立つ人間になりたいですか

